

# 令和5年度 日向市簡易水道事業会計決算の概要について

## 1. 総括

日向市東郷町における簡易水道施設は、昭和49年の山陰地区簡易水道事業の給水開始など、地域の発展とともに住民の公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与してきました。

簡易水道事業は事業規模が小さく経営基盤が脆弱ですが、水道事業と同様に給水人口や給水収益が減少しており、施設の老朽化対策や統廃合の検討に伴う大規模な施設更新が見込まれることから、財源の確保などの経営健全化に向けた取り組みが重要な課題となっています。その課題解決に向けて、令和5年1月には水道事業とあわせて料金を改定しましたが、市民生活や企業活動への急激な負担増を抑制するための経過措置として、二段階での改定となっています。令和6年7月に第二段階目の引き上げが予定されており、今後数年間は本年度と同程度の収入が見込まれますが、長期的には人口減少により料金収入が減少すると予想されます。

また、令和5年12月に山陰（第1）水源系の3地区の一部において、水道水中に微細な浮遊物が混入し家庭内給水設備の目詰まりに伴う水圧低下が相次ぐ事象が発生しました。水道水質基準には適合していたことから、同給水区域内において「摂取制限を伴う給水継続」の措置を実施し、飲用水の応急給水活動を行いました。調査の結果、水道水源である井戸内へ鉄細菌の流入が確認されたため、応急措置として「仮設ろ過装置」を設置し原水のろ過を開始しました。ろ過装置については、令和6年度に本設置工事を実施し、安定した施設運用を確立します。

本年度は、料金改定によって給水収益が増加しましたが、本事象による費用の増加やその財源となった一般会計からの繰入金の増加により、料金水準の妥当性を示す料金回収率は令和4年度よりもやや低下する結果となりました。今後も計画的な事業実施に努め、安定供給と経営の健全化に努めていく必要があります。

## 2. 業務状況

令和5年度の簡易水道給水人口は2,484人で前年度より86人減少し、給水戸数は1,081戸で前年度より29戸減少しています。また、給水区域内普及率は99.60%で前年度を0.03ポイント上回りました。次に、年間総配水量は424,359<sup>m</sup>で前年度より10,124<sup>m</sup>減少し、年間総有収水量も365,119<sup>m</sup>で前年度より8,971<sup>m</sup>減少しています。また、有収率は86.04%で前年度を0.06ポイント下回りました。

区 分	令和5年度(A)	令和4年度(B)	比較 (A) - (B)	増減率(%)
1. 給水人口(人)	2,484	2,570	△86	△3.3
2. 給水戸数(戸)	1,081	1,110	△29	△2.6
3. 年間総配水量( <sup>m</sup> ³)	424,359	434,483	△10,124	△2.3
4. 1ヶ月平均配水量( <sup>m</sup> ³)	35,363	36,207	△844	△2.3
5. 年間総有収水量( <sup>m</sup> ³)	365,119	374,090	△8,971	△2.4
6. 1ヶ月平均有収水量( <sup>m</sup> ³)	30,427	31,174	△747	△2.4
7. 有収率(%)	86.04	86.10	△0.06	-

### 3. 財政状況

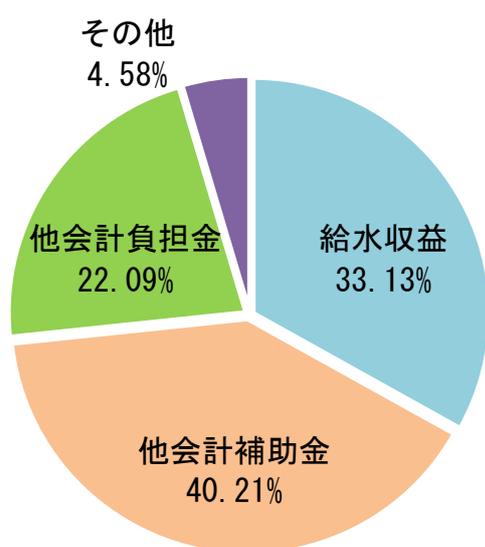
本年度の収益的収支（税抜）において、収益は184,053,959円で前年度より78,231,032円増加し、費用も137,873,549円で前年度より34,543,678円増加しました。当年度純利益は46,180,410円で前年度より43,687,354円増加しています。

収益では、料金改定により給水収益が15,699,610円増加しました。費用では、営業費用が29,724,381円増加しています。これは山陰地区の浮遊物流入への対策事業として、取水井の清掃に係る委託料やろ過装置の賃借料が発生したことによるものです。

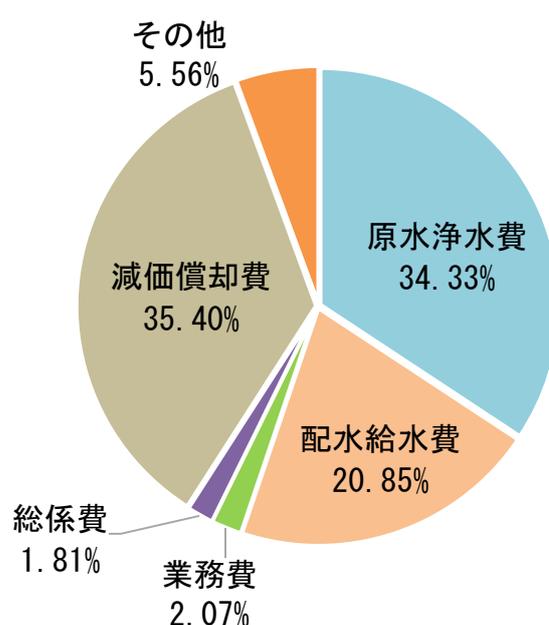
(単位：円、%)

区 分	令和5年度(A)	令和4年度(B)	比較 (A) - (B)	増減率
簡易水道事業収益	184,053,959	105,822,927	78,231,032	73.9
営業収益	61,452,830	45,593,620	15,859,210	34.8
営業外収益	122,601,129	60,229,307	62,371,822	103.6
特別利益	0	0	0	-
簡易水道事業費用	137,873,549	103,329,871	34,543,678	33.4
営業費用	127,526,849	97,802,468	29,724,381	30.4
営業外費用	10,330,500	5,476,083	4,854,417	88.6
特別損失	16,200	51,320	△35,120	△68.4
純利益（収益－費用）	46,180,410	2,493,056	43,687,354	-

収益的収入 構成割合



収益的支出 構成割合

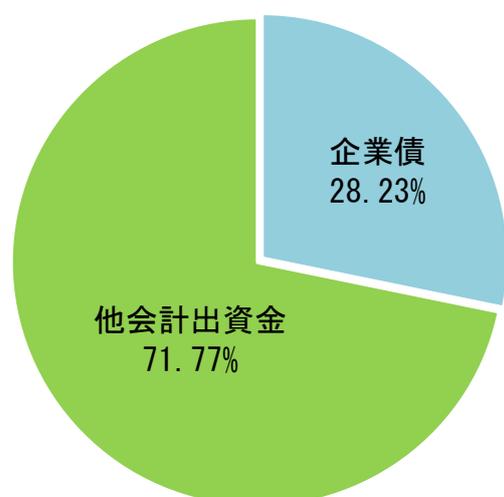


資本的収支（税込）においては、収入額 29,042,000 円に対し支出額は 55,910,426 円で、差引き収支不足額は 26,868,426 円となり、不足額を損益勘定留保資金等で補てんしています。

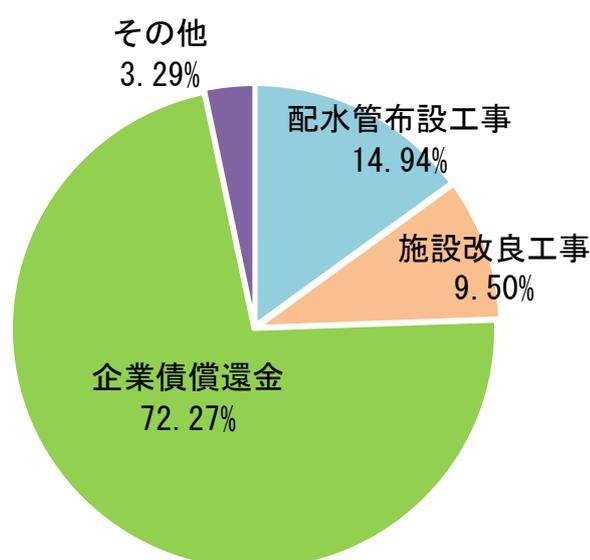
(単位：円、%)

区 分	令和 5 年度 (A)	令和 4 年度 (B)	比較 (A) - (B)	増減率
資本的収入	29,042,000	34,605,000	△5,563,000	△16.1
企業債	8,200,000	14,800,000	△6,600,000	△44.6
他会計出資金	20,842,000	19,805,000	1,037,000	5.2
工事負担金	0	0	0	-
国庫補助金	0	0	0	-
他会計補助金	0	0	0	-
固定資産売却代	0	0	0	-
資本的支出	55,910,426	58,112,151	△2,201,725	△3.8
建設改良費	15,506,320	19,383,320	△3,877,000	△20.0
企業債償還金	40,404,106	38,728,831	1,675,275	4.3
投資その他の資産	0	0	0	-
差引	△26,868,426	△23,507,151	-	-

資本的収入 構成割合



資本的支出 構成割合



#### 4. 企業債の状況

(単位：円)

区分	前年度末残高	本年度借入高	本年度償還高	本年度末残高
簡易水道事業	305,600,739	8,200,000	40,404,106	273,396,633

